

## (参考資料)

### 1. ごみ焼却施設の規模

#### 1-1. 将来ごみ量

将来の家庭系及び事業系のごみ量、再生資源量については、実績データにもとづき推計される人口、原単位(市民1人1日あたりのごみ量)等を基に、将来のごみの減量、資源化の促進を考慮した将来ごみ量を設定します。

また、ごみ焼却施設の整備に伴いごみ処理システムの効率化、資源の循環利用を図るため、他の廃棄物処理施設の併設について検討します。

表 減量化、資源化を考慮した将来ごみ量

年度		H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
人口(人)		374,569	374,536	374,506	374,479	374,453	374,429	374,406	374,385	374,364	374,345	374,327	374,309	374,293	374,277	374,262
家庭系(t)	可燃ごみ	57,475	57,366	57,266	57,176	57,093	57,014	56,940	56,872	56,808	56,753	56,700	56,649	56,602	56,557	56,514
	不燃ごみ	5,780	5,622	5,474	5,333	5,198	5,072	4,951	4,836	4,726	4,703	4,682	4,662	4,640	4,622	4,604
	大型ごみ	3,626	3,590	3,559	3,530	3,503	3,479	3,457	3,436	3,417	3,398	3,381	3,365	3,350	3,335	3,321
	埋立ごみ	1,777	1,753	1,729	1,706	1,682	1,658	1,634	1,611	1,587	1,563	1,540	1,516	1,492	1,469	1,445
	小計	68,658	68,332	68,027	67,744	67,476	67,223	66,982	66,755	66,538	66,418	66,303	66,192	66,084	65,983	65,884
事業系(t)	可燃ごみ	45,529	45,258	45,012	44,786	44,579	44,387	44,207	44,040	43,882	43,734	43,593	43,460	43,334	43,213	43,098
	不燃ごみ	2,912	2,803	2,707	2,621	2,544	2,474	2,411	2,353	2,299	2,250	2,204	2,161	2,121	2,084	2,048
	埋立ごみ	295	276	260	246	235	224	215	207	199	192	186	181	176	171	166
	小計	48,737	48,337	47,978	47,654	47,357	47,085	46,833	46,599	46,381	46,176	45,984	45,802	45,631	45,468	45,313
ごみ総量(t)		117,395	116,668	116,006	115,397	114,834	114,308	113,815	113,355	112,919	112,594	112,287	111,994	111,715	111,451	111,197
再生資源(t)	アルミ缶	316	319	322	325	328	331	334	337	339	341	342	343	344	345	346
	スチール缶	407	422	435	448	459	470	482	490	500	486	473	462	450	440	429
	ガラスびん	2,128	2,160	2,191	2,218	2,243	2,266	2,286	2,303	2,318	2,267	2,216	2,165	2,115	2,063	2,014
	ペットボトル	517	525	533	539	546	552	557	563	568	572	577	581	585	589	593
	飲料用紙パック	100	98	96	95	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	84
	その他プラスチック	6,500	6,531	6,560	6,586	6,610	6,632	6,653	6,672	6,691	6,708	6,725	6,741	6,756	6,770	6,784
	白色トレイ	85	85	85	85	85	85	85	85	85	85	85	85	85	85	85
	新聞	375	368	362	357	352	348	344	340	337	334	331	328	326	323	321
	雑誌	455	441	429	419	409	401	393	386	380	374	368	363	358	354	349
	ダンボール	293	284	277	270	265	260	255	250	247	243	239	236	233	230	228
	布類	155	158	160	162	163	165	166	168	169	170	171	173	174	175	176
	乾電池・蛍光灯	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
	計	11,370	11,432	11,490	11,543	11,594	11,641	11,686	11,724	11,761	11,708	11,654	11,602	11,552	11,499	11,448

## 1-2. 計画処理量

ごみ焼却施設の処理対象物は、家庭から出る燃やせるごみ、持込ごみ、事業系ごみと、大型ごみ、不燃ごみの破碎処理後の破碎可燃物です。

ごみ焼却施設の移転については、平成 27 年度を目標として、稼働・竣工することとされていることから、この稼働目標年度から 7 ヶ年となる平成 33 年度までの間で、処理対象量が最大となる平成 27 年度の計画処理量から設定します。

■可燃ごみ処理量 106,350 t/年 (対象年度：平成27年度)

(内訳)

焼却ごみ	100,690
選別可燃残渣	5,660

## 1-3. 年間稼働日数

施設の年間稼働日数は、補修点検等にかかる稼働休止日数より以下のとおりとします。

稼働休止日数：85 日 / 年

＝補修整備期間 30 日＋補修点検期間 15 日×2 回＋全停止期間 7 日間  
＋起動に要する日数 3 日×3 回＋停止に要する日数 3 日×3 回

よって、年間稼働日数：280 日 / 年

## 1-4. 調整稼働率

ごみ焼却施設が、正常に運転される予定の日においても、故障の修理、やむを得ない一次休止のため処理能力が低下することを考慮し、調整稼働率を 96%とします。

## 1-5. 施設規模

以上より、施設規模は次式により算定されます。

計画処理量 106,350t/年 ÷ 年間稼働日数 280 日 ÷ 調整稼働率 96%  
＝施設規模：400t/日

なお、この他に災害時等の一時多量ごみを見込む必要があることや、今後のごみ量の実績の変動に応じ、施設規模には変更が生じます。

## 2. 他の廃棄物処理施設の併設

既設の環境清美センターにおいては、ごみ焼却施設の敷地内に、粗大ごみ・不燃ごみ破碎施設が併設されています。ごみ焼却施設の移転にあたっては、ごみ処理の効率性の確保を考慮すると、この破碎処理施設についても、併せて移転することが望ましいと考えられます。また、その場合には、現在仮設である市内大安寺西の再生資源中間処理施設（缶、ペットボトル）の機能を併せ持つリサイクルセンターとしての整備が考えられます。

一般廃棄物処理基本計画においては、資源物の中間処理について、仮設である再生資源中間処理保管施設の能力の増強等について検討することとしており、またさらにリサイクルセンターについては、ごみ減量・資源循環に関する啓発、体験学習等を行う市民の学習拠点としての整備を進めることとしています。

したがって、ごみ焼却施設移転にあたっての他施設の併設としては、現行と同様に粗大ごみ及び不燃ごみの破碎・選別機能を整備し、併せてこれらの再生資源の選別・保管機能ならびに啓発・学習機能を備えたリサイクルセンターの整備を計画します。

## 3. リサイクルセンターの規模

### 3-1. 計画処理量

リサイクルセンターの処理対象物は、家庭から出る大型ごみ・不燃ごみの破碎処理と、缶、ペットボトルの選別処理のほか、現在委託等により選別・保管を行っているびん、紙パックの選別処理が考えられます。また、新聞、雑誌等の古紙類、白色トレイ、乾電池・蛍光灯や、町内清掃ごみとして回収される剪定枝等についても本施設で保管し、資源化を図っていくことが必要と考えられます。なお、その他プラスチック製容器包装については、別途平成21年度に選別・圧縮保管施設を整備する予定となっています。

リサイクルセンターの移転についても、ごみ焼却施設と同時となる平成27年度を目標として、稼働・竣工すると想定し、この稼働目標年度から7ヵ年となる平成33年度までの間で、処理対象量が最大となる平成27年度（ペ

ペットボトル及び布類は増加傾向が見込まれることから平成 33 年度)の計画処理量から設定します。

■ 破碎処理量	10,443	t/年
■ 選別処理量	3,839	t/年
■ 選別保管量	1,265	t/年
■ 町内清掃ごみ量	1,402	t/年

(内訳)

大型ごみ	3,417	(対象年度：平成27年度)
不燃ごみ	7,026	(対象年度：平成27年度)
缶	839	(対象年度：平成27年度)
びん	2,318	(対象年度：平成27年度)
ペットボトル	593	(対象年度：平成33年度)
紙パック	89	(対象年度：平成27年度)
新聞	337	(対象年度：平成27年度)
雑誌	380	(対象年度：平成27年度)
ダンボール	247	(対象年度：平成27年度)
布類	176	(対象年度：平成33年度)
白色トレイ	85	(対象年度：平成27年度)
乾電池・蛍光管	40	(対象年度：平成27年度)
町内清掃ごみ	1,402	(対象年度：平成27年度)

年間稼働日数	240日 = 365日 - 125日
年間停止日数	125日 = 土日104日 + 年末年始5日 + 補修整備期間16日間
月変動係数	1.21 不燃・粗大
	1.98 缶
	1.26 びん
	1.44 ペットボトル
	1.24 紙パック

### 3-2. 年間稼働日数

施設の年間稼働日数は、土日年末年始、補修点検等にかかる稼働休止日数より以下のとおりとします。

稼働休止日数：125日/年

= 土日 104日 + 年末年始 5日 + 補修整備期間 16日間

よって、年間稼働日数：240日/年

### 3-3. 月変動係数

リサイクルセンターにおける処理については、処理対象物の発生・排出が

年間を通じて一定ではなく、季節により変動することから、計画処理量に一定の月変動係数を考慮する必要があります。

リサイクルセンターの月変動係数としては、平成 18 年度の実績を基に、処理品目ごとに設定します。

#### 3-4. 施設規模

以上より、施設規模は次式により算定されます。

計画処理量 16,949t/年 ÷ 年間稼働日数 240 日 × 品目別月変動係数  
= 施設規模 : 100t/日